

終わりに

20 年間は早いものである。都立大学が目黒の地から南大沢に移転し、附属高校だけが残されることになった。府立高等学校から、この地域をつくってきた「歴史」の転換点だった。しかし、生涯学習機構をつくり、大学レベルの年間を通した講座を用意できた。新しい学習の仕組みが生まれていった。生涯にわたる学習の機会をつくることは、住民が地域をつくることの重要な柱になることは間違いない。20 年間の「めぐろシティカレッジ」の実践は、柱の基礎が確実に作られたことだ。

「めぐろシティカレッジ」の継続は、持ち・培ってきた特色を活かしきることだ。4つの講座で20回の講義、年間80の講義が展開している。しかも20年間にわたって。そこには膨大な地域の学習が存在する。可能性の束でもあるのだ。この束をどのように活かし・成長させるかが問われている。「目黒」の地なければ学べないこと、世界から「目黒」を見ること、歴史の中に「今」を位置づけ、未来に繋ぐこと。問われる課題は大きい。しかし、生涯にわたる学習をつくることは充実のある楽しさを与えてくれる。

「めぐろシティカレッジ」の次の10年をつくるのは、「あなたです」という段階にきている。参加型の学習が取り入れられ、学習成果をかたちあるものにし、お互いにそれを評価しあう。学習の喜びの発見があると思う。学びの共同体を創っていくことと、地域をつくることには深いかかわりがあることがだんだんはっきりしてきた。

本冊子を作成するにあたり、区長、教育長に寄稿していただいた。時には厳しい視線と暖かいまなざしを受けることで、「めぐろシティカレッジ」の確実な成長を図っていきたい。

(山崎憲治記)